

アフリカの人々と名付け 48

双子たちの兄弟の名前、親の名前

小馬 徹

双子の文化複合に富むアフリカでは、双子に特定の名前を与える民族は枚挙に暇がない。

しかもウガンダの、ガンダを初めとするニョロ、ソガなどの湖間バントゥ諸民族では、双子の兄弟姉妹にも特定の名前を与える。前回その一端を紹介したが、今回は類例を追ってみよう。

ルオ群の双子の兄弟の名

こうした慣行は、湖間バントゥの諸民族だけでなく、その近隣の人々の間にも見られる。その一例が南西ケニアに住む西ナイル語系のルオ人で、男の子なら、双子の初生児は Opiyo、次生児は Odongo と名付ける。そしてルオ人の一部は、双子の次の子には Okello、その次の子には Omali、更にその次の子には Osinde という決まった名前を与える。なお、これは男の子の場合で、女の子なら、以上の各々の名前の男性接頭辞 o- を女性接頭辞 a- に置き換えて、Apiyo、Adongo、Akello、Amali、Asinde と名付ける。

南スーダンのバリ人はルオ人と類縁性が高く、その言語は西ナイル語系中のルオ群に分類される。バリの双子は、初生児は男児なら Ulang'、女児なら Bojo、次生児は男児なら Lado、女児なら Jore となる。そして、双子の次の子供には、男児なら Mogga、女児なら Gune の名を与える [Whitehead, G. O., "Personal Names among the Bari", *Man* 47, 1947]。

ディンカ人

次に、イギリス社会人類学の古典で知られ、西ナイル語系ディンカ群の言語を用いる南スーダンのディンカ人とヌエル人に話を移そう。

ディンカ人は、双子の初生児は男児なら Ngor、女児なら Anger、次生児は男児なら Chao、女児なら Achan と名付ける [Deng, F. M., *The Dinka of the Sudan*, 1972]。ただし、

Ngor と Chan が男児の双子の最も普通の名前とのみ記す報告や [Lienhardt, G., "Social and Cultural Implications of Some African Names", *JASO* 19(2), 1988]、二人とも男児なら Did と Lual となるとする別の報告もある [Seligman, C. G., *Pagan Tribes of the Nilotic Sudan*, 1932]。

そして、双子の次に生まれた子供は、男児なら Bol、女児なら Nyabol (あるいは Nanbol, Nyibol, Nibol) と名付ける [Deng, *ibid.*]。

ヌエル人

ヌエル人は、ディンカ人との類縁性が強い。古い記録によると、双子には Gwong' (初生児：ホロホロチョウの意味) と Ng'ech (次生児：ジャコの意味)、あるいは Buth と Duoth という名前を、その次の子供には Kwoth、chuakuni という名前を付ける [Seligman, *ibid.*]。

より信頼できる報告では、双子の初生児は Both (女児は Nyaboth)、次生児は Duoth (女児なら Nyaduoth) と命名する。時には Gwong' (ホロホロチョウ)、Ng'ech (ジャコ)、または Dit (女児なら Nyadiet：鳥) と名付けられもする [Evans-Pritchard, "Nuer Modes of Address", *The Uganda Journal*, 12(2), 1948]。そして、「ヌエル人は双子は鳥だ」という [*ibid.*]。

双子の直後の子供の名前は Bol (女児は Nyiboul) あるいは Bichok、その次の子供の名前は Tot (女児は Nyatot) となる [*ibid.*]。

別の報告では、双子のすぐ後の子供の名前は Bol (女児は Nyibol)、その次の子供は Geng' あるいは Kaat (女児なら Nyageng' または Nyach-wiil)、更にその次に生まれた子供は Tot (女児は Nyatoot) となっている [Whitehead, *ibid.*]。

バミレケ人とハウサ人

以上はいずれも東部アフリカのナイル川流域に住む人々の場合だが、そればかりでなく、他のアフリカ地域にも類似の事例が散見される。

カメルーン高地に住むセミ・バントゥ語系のバミレケ人の場合、バングンテでは双子の次の子供は、『双子のあとに生まれる者』という意味の言葉で命名される〔古野清人「双生児の民俗学」、『古野清人著作集』4, 1972〕。

ナイジェリア北西部からニジェール南部にかけて住むチャド語系のハウサ人は、人口1,000万を超える大民族だ。彼らは、いずれも4代目カリフであるアリの二人の息子の名前に因んで双子の男児の初性児を Hassan、次性児を Husseini または Husayn と名付け、女児なら各々女性接尾辞をつけて Hasana、Huseina とする。そして、双子の次の子供は性を問わず Gaddo (または Gado: 受け継ぐ者の意味) と、また双子の前の子供も同様に Gumbo と名付ける [Harris, P. G., "Some Conventional Hausa Names", *Man* 31, 1931]。

クワ語系の人々

ナイジェリア、ベニン、トーゴに跨がる地域に住むヨルバ人は、1,500万の人口を擁し、クワ語系の言葉を話す。彼らの場合は、ハウサとは逆に双子は性を問わずに、初生児は Taiwo (女児は Taiye とも言う: 世界を最初に味わう者の意味)、次生児は Kehinde (後塵を拝する者の意味) と命名する。双子の直後の子供も性無視的に Idowu と、その次の子供は、男児なら Idobe、女児なら Alaba と名付ける [Johanson, S., *The History of the Yoruba*, 1970]。

ガーナ沿岸部に住むクワ語系のガー人は、男児なら、双子の初生児は Ako、次生児は Akwete、女児なら各々 Akuwele と Akuoko と命名する。また、双子の次の子供は性を問わず Tawia、その次の子供も同様に Ago、更にその次の子供も同じく Abang' と名付ける [Madubuike, I., *A Handbook of African Names*,

1976]。

ガー人に類縁でダホメの海岸部に住むグン人は、双子には男児なら (いずれも?) Zinsou、女児なら Zinsa と命名する。双子の次の子供は性に依じて Dossou か Dossi (男児/女児、以下同じ)、その次の子供は Dosa か Dohwe、更にその次の子供は Donyo か Dohwevi である [ibid.]。

その他の人々

この他にも、双子の次の子供に特定の命名を行う民族が少なくない。例えば、ガンダに近い東ウガンダや南西ケニアには、言語や民族の系統を問わず、その子に Ekesa (Egesa) やそれに似た音価をもつ名前を与える民族が点在する。

そして既に報告した通り、ガンダでは双子の後に生まれた1~5番目の子供と、双子の直前に生まれた子供に特定の名前を与える。

また両コンゴとアンゴラの国境地帯に住み、両コンゴの有力な政治勢力となっているバントゥ語系のコンゴ人にも幾分似た慣行がある。即ち、双子の初生児は Nzuzu、次生児を Nsimba、その次の次の子供を Lukombe と名付ける [Stewart, J., *1,001 African Names*, 1977]。

双子の象徴性

双子に特定の名を与える民族は、世界的に見れば少なくはないだろう。だが、双子の兄弟にも同様の名付けを行うアフリカ以外の事例は、ほとんど聞き及ばない。それゆえにこそ、今回はややくどい程に事例を列挙してみた。

では、上の事情はいかなる理由によるのだろうか。偏に、アフリカでは双子の象徴的—あるいは儀礼的—一価値が著しく高い事に原因がある。特に上記の諸民族では、儀礼など、今もなお存続する様々な象徴形式の中で、双子が多重に意味を与えられ、その中核として世界観やそれに纏わる諸価値を結び合わせているのだ。そして、その強い象徴性が双子の兄弟の名付けにまで溢れ出して表現を与えられているのである。

(こんま とおる 神奈川大学 社会人類学)